1億人ではなく、
100億人を見据えた
GFP 農林水産業へ。

別紙　参考資料

次世代につなぐ魅力ある梨産地の実現

～下妻市果樹組合連合会の取組～

令和４年８月６日

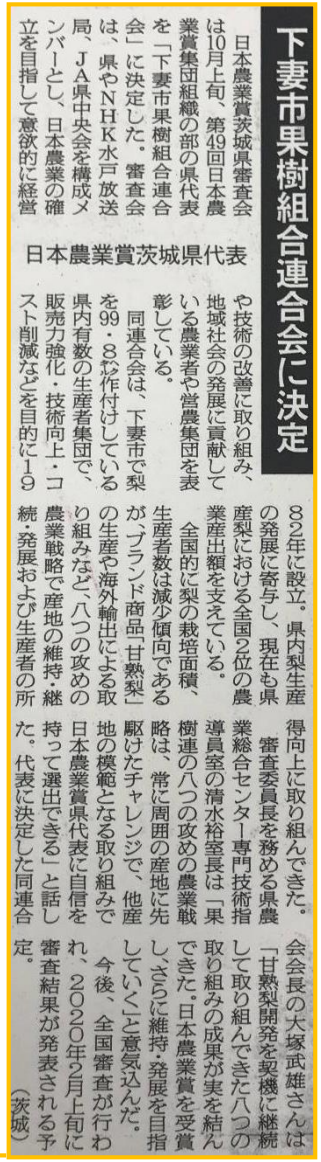
いばらき暮らしセミナー【下妻市】

次世代につなぐ魅力ある梨産地の実現

８つの攻めの農業戦略

産地の維持→継続→発展→所得向上を実現

1. 下妻の梨PRプロジェクトチーム
2. 下妻甘熟梨の国内ブランド化
3. 梨の加工品による周年ＰＲ
4. 輸出事業(ベトナムへの梨輸出量は下妻が日本一)
5. 恵水の海外ブランド化
6. 光センサー導入による差別化販売
7. 大苗育成事業による改植の推進
8. GAPの取組



下妻市果樹組合連合会に決定

日本農業賞茨城県代表

日本農業賞茨城県審査会は10月上旬、第49回日本農業賞集団組織の部の県代表を「下妻市果樹組合連合会」に決定した。審査会は、県やＮＨＫ水戸放送局、ＪＡ県中央会を構成メンバーとし、日本農業の確立を目指して意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展に貢献している農業者や営農集団を表彰している。

同連合会は、下妻市で梨を99・8％作付けしている県内有数の生産者集団で、販売力強化・技術向上・コスト削減などを目的に19８２年に設立。県内梨生産の発展に寄与し、現在も県産梨における全国２位の農業産出額を支えている。

全国的に梨の栽培面積、生産者数は減少傾向であるが、「ブランド商品「甘熟梨」の生産や海外輸出による取り組みなど、八つの攻めの農業戦略で産地の維持・継続・発展および生産者の所得向上に取り組んできた。

審査委員長を務める県農業総合センター専門技術指導員室の清水裕室長は「果樹連の八つの攻めの農業戦略は、常に周囲の産地に先駆けたチャレンジで、他産地の模範となる取り組みで日本農業賞県代表に自信を持って選出できる」と話した。代表に決定した同連合会会長の大塚武雄さんは「甘熟梨開発を契機に継続して取り組んできた八つの取り組みの成果が実を結んできた。日本農業賞を受賞し、さらに維持・発展を目指していく」と意気込んだ。

今後、全国審査が行われ、2020年2月上旬に審査結果が発表される予定。（茨城）

【日本農業新聞 R1年11月1日記事】
下妻市果樹組合連合会が申請した取組が
日本農業賞茨城代表に決定、全国審査へ

下妻市果樹組合連合会の概要

【設　　立】昭和57年
【生産者数】104名
【栽培面積】約92ha
【販売金額】約10億4千万円
【梨出荷量】約2,300t

R3年度

《国内：約2,320t, 輸出：約150t》

【栽培品種】幸水、豊水、あきづき、
新高、恵水、にっこり

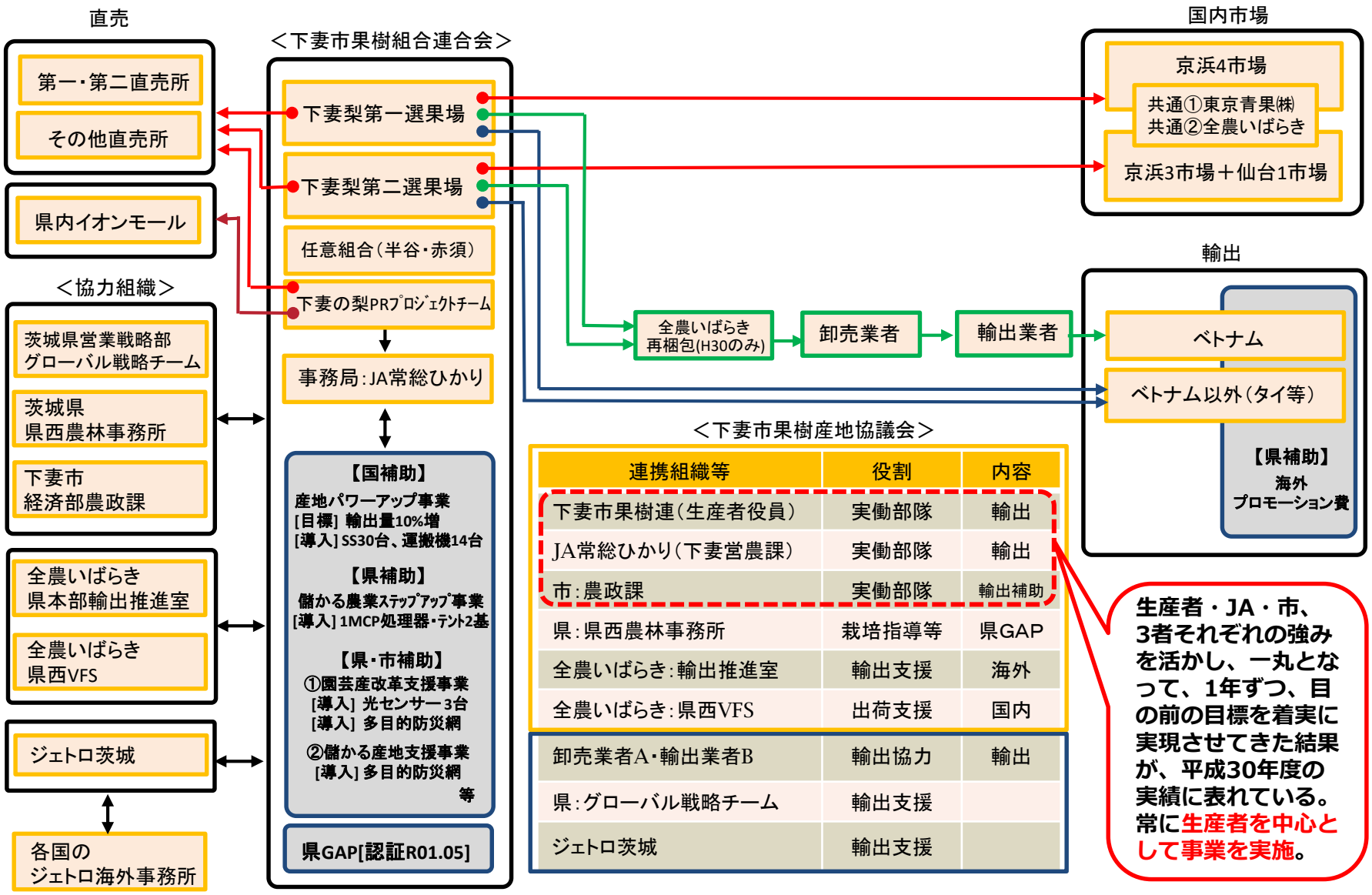
茨城県をリードする梨産地

①平成3年に「県銘柄産地」に指定
②茨城県内の梨生産量：第2位
③梨のサイズは4L,5Lの大玉生産
④市場出荷型で盆前が出荷のピーク
⑤茨城県内の梨輸出のけん引役
⑥貯蔵梨（豊水、恵水）を輸出へ応用

下妻市は東京から50km圏内　※地図提供：下妻市

《参加組合内訳》　（下妻市果樹組合連合会）
下妻梨第一選果場組合（45名）/
下妻梨第二選果場組合（47名）/
半谷梨組合（7名）/ 赤須梨組合（3名）/
黒駒梨組合（1名）/ 高道祖梨出荷組合（1名）

現状の体制


直売
第一・第二直売所
その他直売所
県内イオンモール
＜協力組織＞
茨城県営業戦略部
グローバル戦略チーム
茨城県
県西農林事務所
下妻市
経済部農政課
全農いばらき
県本部輸出推進室
全農いばらき
県西VFS
ジェトロ茨城
各国の
ジェトロ海外事務所
＜下妻市果樹組合連合会＞
下妻梨第一選果場
下妻梨第二選果場
任意組合（半谷・赤須）
下妻の梨PRﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑ
事務局：JA常総ひかり
【国補助】
産地パワーアップ事業
[目標] 輸出量10%増
[導入] SS30台、運搬機14台
【県補助】
儲かる農業ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ事業
[導入] 1MCP処理器・ﾃﾝﾄ2基
【県・市補助】
①園芸産改革支援事業
[導入] 光センサー3台
[導入] 多目的防災網
②儲かる産地支援事業
[導入] 多目的防災網
等
県GAP[認証R01.05]
全農いばらき
再梱包(H30のみ)
卸売業者
輸出業者
国内市場
京浜4市場
共通①東京青果㈱
共通②全農いばらき
京浜3市場＋仙台1市場
輸出
ベトナム
ベトナム以外（タイ等）
【県補助】
海外
プロモーション費
＜下妻市果樹産地協議会＞
連携組織等
役割
内容
下妻市果樹連（生産者役員）
実働部隊
輸出
JA常総ひかり（下妻営農課）
実働部隊
輸出
市：農政課
実働部隊
輸出補助
県：県西農林事務所
栽培指導等
県GAP
全農いばらき：輸出推進室
輸出支援
海外
全農いばらき：県西VFS
出荷支援
国内
卸売業者A・輸出業者B
輸出協力
輸出
県：グローバル戦略チーム
輸出支援
ジェトロ茨城
輸出支援
生産者・JA・市、3者それぞれの強みを活かし、一丸となって、1年ずつ、目の前の目標を着実に実現させてきた結果が、平成30年度の実績に表れている。常に生産者を中心として事業を実施。

産地の現状と課題

①市場価格の低迷、②梨生産者の高齢化・離農、
③老木化による収量減、④後継者不足

産地が生き残るために，チャレンジが必要！

- **安全安心な梨の消費者への提供**
  → 環境にやさしい農業の取り組みにより，
  多くの消費者・実需者に「**選ばれる産地**」へ

- **積極的な産地ＰＲによる産地活性化**
  → 次世代につなぐ「**魅力ある産地**」へ

さらに・・・

- **海外輸出の取り組み**　→「**攻めの農業**」の実現！

環境にやさしい農業の取組

●環境にやさしい土づくり

◎土壌診断による適正施肥の推進

→毎年，全戸・全圃場の土を診断
→圃場の状態に応じて適正施肥

◎減肥・堆肥利用の実証試験の実施

生産者も土壌診断に参加

●環境にやさしい防除

◎フェロモン剤の集団設置

→果樹連がコンフューザーN購入を助成
→減農薬への取り組み

◎発生予察情報を利用した防除

→防除情報をもとに適期防除

下妻の梨PRプロジェクトチーム

- Ｈ２０年発足。現在６名（６人×２０a）で活動

- 「幸水」本来の味にこだわった「**下妻甘熟梨**」を地元量販店（イオン・カスミ）と契約販売

「甘熟梨」の商品イメージ

① カラーチャート２.５以上
② 目標糖度１３度以上
③ Ｈ２８から光センサー選果
④ 摘果、目ぞろえの徹底
⑤ 馬ふん堆肥を共通使用
⑥ ジベレリン処理撤廃

十分に色が回った
「甘熟」の幸水へ

下妻の梨PRプロジェクトチーム

- 生産者自ら店頭に立ち，消費者に対面販売でPR
  - →「下妻の梨PRサポーター」による対面販売に発展
- 「下妻甘熟梨 」で平均単価460円/kg を実現！
  - → 通常「幸水」平均単価300円/kg
- 下妻の梨産地のトップブランド商品として定着

茨城県出身お笑い芸人「フルーツポンチ村上さん」による下妻甘熟梨の大試食会

下妻の梨PRサポーター養成講座

生産～出荷～販売～加工を実体験したPR人材の育成!!

【対象】筑波大、茨城大生や市内親子

①摘果体験(5月)

②収穫・選果体験(7月)

③市場見学(8月)

④店頭PR(8月)

⑤加工体験(9月)

梨狩り体験イベントの開催

産地に消費者を呼ぶ!!

～ 市場出荷型産地の下妻の梨園に笑顔と賑わいを ～

（１）グリーンツーリズムとして「いいな!!しもツアー」

（２）幼稚園児～小学生を対象とした食育として

（３）インバウンドへ発展：海外訪日旅行者に梨ファンを!!

ジェトロ茨城と連携し、海外の人気ブロガー（台湾等）を産地に招待(2017)

農商工連携 第１弾 ～ 梨のリキュール

来福酒造（株）× 下妻の梨PRプロジェクトチームの共同開発

- 6次産業化は難しい → 原料を提供する連携へシフト
- 梨の規格外品を利用 → リキュールが誕生!!
- 周年PRが可能に!! → プレミアム化でさらなるPRを!!

H26: 2,014本

プレミアム化

好評につき増産

H26: 30,000本
H25: 15,000本
H24: 5,000本

市内酒店・道の駅で販売

¥1,100 （税込）通常版
Alc.6度, 500ml, 原料（幸水）

¥1,578（税込）プレミアム版
Alc.10度, 500ml, 原料（あきづき）

農商工連携 第２弾 ～ ご当地ランチパック

山崎製パン㈱の「ランチパック」で 下妻甘熟梨を使った梨ジャム味を発売!!

- 山崎製パン古河工場との連携企画
- H25年10月～関東を中心に「40万食」限定販売
  → 市内の児童・生徒（高校まで）に約7,500食を配布
  → 20万食を2回製造（H25,H26）し、冬前に完売

市内小学校の配布時の様子

イオンモール下妻（ランチパック特設売り場）

農商工連携 第３弾 ～ 下妻のおもて梨

下妻市産「豊水」シロップ煮と カスタードクリームを組み合わせた 和洋菓子の大福餅「下妻のおもて梨」

- **市内和菓子店との連携により商品化**
  - → 梨の香料不使用
  - → 梨のシャリ感を出す工夫
- **H26年8月から**
  - → 道の駅しもつまで販売

※2019.03：在庫限り販売で製造終了

輸出の取組（Ｈ２５年度）～ １年目

攻めの農業への挑戦

将来の国内消費の減少を見据え，海外へ販路拡大！

- **H25.9: タイ「SME Thailand Expo 2013」に出展**
  - → 空路で「あきづき 50kg」を**試験**輸出
  - → 試食アンケート調査を実施し、５００名から回収
- **H25.10: シンガポール「伊勢丹百貨店」で対面販売**
  - → 船便で「新高 660kg」を**販売**輸出

SME Thailand Expo 2013（試食アンケート調査）

シンガポール輸出出発式

輸出の取組（Ｈ２６年度）～ ２年目

産地独自の海外商談活動

H26.7:タイの日本食レストラン、居酒屋等を個別訪問し商談

日本料理「葵」

日本食ﾚｽﾄﾗﾝ「将軍」

居酒屋「けんぞう」

みずほの村市場
バンコク店

ジェトロ主催の海外商談会に参加

H26.12:タイ国王・王女に下妻梨を献上!!

ジェトロ商談会 in マレーシア H26.9

ジェトロ商談会 in タイ H26.10

タイ市場調査
H26.10

H26.7 在東京タイ王国大使館表敬訪問

Ｈ２６輸出実績　タイ:130kg, マレーシア:260kg

輸出の取組（Ｈ２７年度）～ ３年目

マレーシアバイヤーとの個別商談

H27.9 マレーシアへの梨輸出が 6,760kg に!!

H27.4 バイヤー招聘

H27.6 海外商談

H27.9 マレーシア高級スーパーで販売

ジェトロ商談会 in タイ参加 → バイヤー招聘

H27.9 ジェトロ商談会 in タイ

H27.10 タイバイヤーを産地に招聘

H27輸出実績 タイ:1,327kg, マレーシア:6,760kg

マレーシアへの輸出は、梨の他、タカミメロン 1,975kg、太秋柿 875kg に拡大!!

輸出の取組（Ｈ２８年度）～ ４年目

①日本梨が輸入できない国へ挑戦

→ 国・県と連携し相手国と交渉

→ 圃場登録や病害虫検査を受検

●ベトナム [輸入条件が未設定]

H29年１月 輸入解禁（下妻の梨圃場が全国初許可）

●カナダ [植物検疫条件の規制]

H28年11月輸入緩和（全国で緩和。下妻で初輸出）

県産ナシ、カナダ輸出
検疫緩和後で全国初

H28.11.18 日本農業新聞

②光センサー導入後の初出荷年 (H27年1台/H28年2台導入)

年度	タイ	マレーシア	シンガポール	カナダ	ベトナム
H25	50kg	―	600kg	―	―
H26	130kg	260kg	―	―	―
H27	1,327kg	6,760kg	―	―	―
H28	2,150kg	2,250kg	345kg	47.5kg	5kg

下妻市産「梨」の輸出実績まとめ

輸出の取組（Ｈ２９年度）～ ５年目

①梨輸出**１００トン越え**に挑戦

→ １１０.３６トン達成！

②茨城県育成品種「**恵水**」の**海外ブランド化**に挑戦

→ タイに**１トン**の恵水を輸出、高級店で販売！

③海外販路開拓（**新たな輸出相手国**）に挑戦

→ インドネシア・ジャカルタへ**初**輸出！

ジェトロ商談会 in ホーチミン 7月

ベトナム初輸出出発式 8月16日

ベトナム初販売式典 HCM高島屋 8月23日

特命全権ベトナム大使 表敬訪問 ９月８日

梨販売本格化セレモニー AEON(HCM) ９月23日

年度	タイ	マレーシア	シンガポール	カナダ	ベトナム	インドネシア
H28	2,150kg	2,250kg	345kg	47.5kg	5kg	―
H29	3,000kg	2,100kg	―	―	105,100kg	160kg

ベトナムへの梨輸出100トン達成 H29.11.09

- 露地梨99.1トンに加え、貯蔵梨6トンを輸出

NHK 首都圏ニュース 経済シリーズ「次の一手」H29.11.15放送

輸出の取組（Ｈ３０年度）～ ６年目

①梨輸出**１５０トン越え**に挑戦

→ １５２トン達成！

②「**恵水**」の**海外ブランド化**を**継続**

→ **タイ**への750kg輸出 に加え、
新たに**香港**へ840kgを輸出

③**新たな輸出相手国**の開拓

→ **ドバイ、フィリピン**にて商談・市場調査を実施

日本農業新聞H30.2.14

梨 ベトナム輸出拡大

1.5倍の150トン目指す

現地で商談

茨城・下妻市果樹組合連

H30.2.14 日本農業新聞

※H30年度の詳細は、別紙「活動ポスター2018」を参照

年度	タイ	マレーシア	カナダ	ベトナム	インドネシア	香港
H28	2,150kg	2,250kg	47.5kg	5kg	―	―
H29	3,000kg	2,100kg	―	105,100kg	160kg	―
H30	750kg	―	―	151,200kg	―	840kg

下妻市産「梨」の輸出実績まとめ

取り組みの成果（１）

●産地PRの継続によって…「下妻の梨」がマスコミで取り上げられる機会が劇的に増加！

日本テレビニュース every. H27.11.17放送

日本テレビニュース every. H28.9.14放送

2017年(平成29年)11月12日　日曜日

茨城新聞

下妻産ナシ、100トン突破

JA ベトナム輸出、達成祝う

下妻市の特産品のナシを東南アジアへ輸出しているJA常総ひかり（塚本治男組合長）は9日、本年度からベトナムへのナシの出荷量が、目標としていた100トンを超えたため「下妻市産梨輸出100トン達成記念式典」を開いた。

同JAは2013年から東南アジアへのナシ輸出に取り組んでいる。ベトナムへのナシ輸出が1月に解禁されたことから、本格輸出に向け、生産園地の登録や植物防疫所の検査などの手続きを進め、8月には「幸水」11トンを初出荷。11月に本年度最終の「貯蔵ナシ（豊水）」6トンを輸出し、目標としていた100トンを超えた。

同市大木の同JA下妻梨第一共同選果場で開かれた達成記念式典には、同JAベトナムへのナシの輸出が目標の100トンを超え、くす球を割る関係者＝下妻市大木のJA第一共同選果場

同JA本組合長は「目標を達成できたことは、ベトナムでも認められた証し。今後も安全安心、新鮮なナシの輸出でブランド力を向上させたい」と期待を込めた。

同JAでは目標の100トンを超えた要因として、現地企業との信頼関係を築けたことで、ホーチミンの現地スーパーなどでも販売され、幅広い層への販売が可能になったためと分析している。（関富美也）

H29.11.12茨城新聞

●産地としての「下妻」の知名度の上昇

●地域活性化・<u>若手生産者の意欲向上</u>へ！

取り組みの成果（２）

●産地の構造改革・生産体制のさらなる強化へ

（１）大苗の集団育苗による改植の推進

（２）青年部を中心とした「梨ジョイント栽培」の導入

取り組みの成果（２）つづき

（３）茨城県GAPに取組み認証

2019 いばらき国体へ梨＆下妻甘熟梨ゼリーを提供!!
2020 東京オリンピックへの梨提供を目指す!!

茨城・下妻市果樹組合連合会
梨で初、県GAP認証
選ばれる産地めざす

H30.6.4 日本農業新聞

（４）輸出量10%増を目指し産地パワーアップ事業を活用

H30実績：SS30台(写真左)、運搬機14台(写真右)を導入し、生産体制を強化

➡ 生産体制の強化に続き、海外のニーズに合った産地づくりのため、「GFPグローバル産地づくり推進事業」を活用し、産地計画作成中

取り組みの成果（３）

●第49回 日本農業賞（集団の部）大賞受賞（令和元年度）

下妻甘熟梨のブランド化や輸出事業が高く評価された

攻めの農業 奏功

茨城・下妻市果樹組合連

日本農業賞 大賞受賞に歓喜

R2.2.1 日本農業新聞

●産地販売金額１０億円を達成！！（令和3年）

【平成28年（5年前）】

販売金額：7億9,000万円

販売単価：309円／kg

【令和3年】

販売金額：10億3,800万円

販売単価：451円／kg

これからも下妻は,

県内の梨産地をリードし,

チャレンジし続ける産地を目指して行きます。